

【目次】

1. アーカイブ No.4

連載「日本労働会館物語」第 39 回 2013.06.13 発行の第 66 号に掲載

2. 2022 年度 第 4 回 理事会が 3 月 24 日(金)友愛会館会議室にて開催される
3. 出張講演 UA ゼンセン・流通部門・GMS 部会運営委員会 4 月 12 日 16 名
4. UA ゼンセン富山県支部 4 月 14 日(金)18 名が来館
5. 九州電力・第 5 期フロンティアリーダー研修 4 月 22 日(土) 7 名が来館
6. 出張講演 UA ゼンセン・群馬県支部・流通部門協議会 4 月 28 日(金) 17 名
7. ゴールデンウィークの休館のお知らせ(2023.04.29～2023.05.07)

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.4

連載「日本労働会館物語」第 39 回 2013.06.13 発行の第 66 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 39 回

＜惟一館をデザインしたのは誰かーその 1＞

本連載「日本労働会館物語」の久しぶりの登場で、テーマは「惟一館をデザインしたのは誰か」。「惟一館の設計はジョサイア・コンドル」というのは周知の事実。しかし最近、惟一館のデザインに関する注目すべき説が登場しています。これはユニテリアン研究者として知られる土屋博政先生(慶応義塾大学名誉教授)が指摘しているもので、土屋先生は「惟一館をデザインしたのはユニテリアン教会のクレイ・マッコレーイ牧師で、コンドルはそれを建築図面に仕上げた」という注目すべき見解を明らかにしています。

土屋先生は、米国・ハーヴァード大学のアンドーヴァー・ハーヴァード・セオロジカル・セミナー(神学大学院)図書館に保管されていたクレイ・マッコレーイ牧師の膨大な書簡を持ち帰り、その中から「惟一館は私自身の企画とデザインによっています」というマッコレーイ牧師の手紙(1911 年 10 月 26 日付)を発見しています。



従来から惟一館は、和洋折衷の「特異な存在」、「ミョーチクリン」な存在と指摘されてきました。

『ジョサイア・コンドル建築図面集 I』(中央公論美術出版)の「唯一館」(ママ)の項には、「唯一館は・・・その外観は明らかに日

本の伝統的な建築を志向したものであった。しかし、ホールを中心とする平面形式、暖炉を設けた室内意匠、それに構造や仕上げなど、基本的にはあくまでコンドルの設計になる洋風建築である。和風の外観は、彼の作品の中では特異な存在であるが、それはコンドルだけの意

思ではなく、自主性を強調したユニテリアン教そのものの方針に添ったものでもあった」と記述されています。

また、建築史家・建築家として知られる藤森照信氏(工学院大学教授、東京大学名誉教授)は、『鹿鳴館の夢—建築家コンドルと絵師暁英』の中の「コンドル先生の不思議」で、「和洋折衷の試みをコンドルは例外的な一作を除いては生涯していない。その一作というのは明治 27 年の唯一館(ユニテリアン教会)だが、なぜ唐突に試みたかという唯一館の代表者のアーサー・メイ・ナップ氏が熱烈な和洋折衷主義者だったことが大きいと推測される。おそらくナップ氏にすすめられて、ふとやってみようと思ったのであろう。結果はサンザンだった。実現した姿もひどいが、計画案もミョーチクリンで、もしかしたらコンドルは中国と日本の差も分かっていないのではと疑わせるほどで、彼よりもはるかに日本滞在の短かったレスカスやエンデ&ベックマンの和洋折衷西洋館よりもレベルが低い同程度でしかない。」と酷評しています。

2. 2022 年度 第 4 回 理事会が 3 月 24 日(金)友愛会館会議室にて開催

理事会の冒頭、議長である宮本代表理事の挨拶で始まりました。

<報告事項と議案>

代表理事の挨拶を受けて、各担当から①友愛労働歴史館事業(藤吉友愛労働歴史館館長)、②労使関係研究協会事業(滑川労使研事務局長)、③宿泊事業(菊池総務部長)の報告がされた。その後、滑川常務理事から 2022 年度決算予測が説明された。

なお、次の議案はすべて採択されました。

第 1 号議案 2023 年度 事業計画(案)承認の件について

第 2 号議案 2023 年度予算(案)承認の件について

第 3 号議案 (一財)日本労働会館の 2025 年度以降の公益事業運営について

第 4 号議案 投資計画「ホテルの空調設備更新」について

3. 出張講演 UA ゼンセン・流通部門・GMS 部会運営委員会 4 月 12 日 16 名

UA ゼンセン・流通部門・GMS 部会運営委員会 16 名が、講義「流通運動の歴史と流通部門の今後の課題」を受講、流通運動の歴史とユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など政策制度の実現のため、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。

4. UA ゼンセン富山県支部 4 月 14 日(金) 18 名が来館見学

UA ゼンセン富山県支部 4 月 14 日(金) 18 名が来館見学。展示パネルに沿って解説を聞き、資料室の閲覧など、各々が熱心に見学し、最後に三代会長の胸像、記念碑とモニュメントを見学し、全員で記念写真を撮りました。

5. 九州電力・第5期フロンティアリーダー研修 4月22日(土) 7名が来館・受講見学

九州電力・第5期フロンティアリーダー研修 7名が、講義「日本労働運動の100年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を70分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・唯一館煉瓦堀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し、細かく見学した様子でした。

6. 出張講演 UA ゼンセン・群馬県支部・流通部門協議会 4月28日(金) 17名

UA ゼンセン・群馬県支部・流通部門協議会 4月28日(金) 17名が、講義「日本労働運動の100年余り」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説と流通労働運動の歴史と今後の課題について120分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。特に流通運動の今後の課題では政策実現能力、政治力、生産性向上について、流通独自の固有の問題や考え方について熱心に聞き入っていました。

7. お知らせ

①友愛労働歴史館のゴールデンウィークの臨時休館日

5/1(月)と5/2(火)、臨時休館とします。

2023年04月29日(土)～2023年05月07日(日)の期間、友愛労働歴史館は休館とします。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行：友愛労働歴史館

責任者：藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairedokishikan.com>

-----唯一館から128年、友愛会から110年-----